

国際交流センター

JUN. 2017 Vol.47

NEWSLETTER

国際交流センター長 就任の挨拶



今年度4月より、新しい国際交流センター長が就任致しました。この場を借り、皆さまへ挨拶をさせていただきます。

吉村 あき子 国際交流センター長 教授

2017年(平成29)4月に国際交流センター長に就任いたしました吉村です。この4月を境に、海外から奈良女子大学がどう見えているか、という視点を取る必要に迫られることが多くなってきました。関わる仕事は大きく分けて5つあります。1.国際交流に関すること(当たり前ですが…)、2.学生(留学生)に関すること、3.グローバルラーニングに関すること、4.国際拠点に関すること、5.その他国際交流に関し学長が命じること、です。

奈良女子大学は、ご存知のように、国が設定した「3つの重点支援枠」の内、重点支援②「強み・特色のある分野で地域というより世界ないし全国的な教育研究を推進する」国立大学を選択しました。その強み・特色の一つが国際/グローバル化で、現在、第3期中期目標戦略3の「留学希望学生の英語教育、受け入れ留学生のための日本語教育、英語による教育」を拡充し、平成33年度に「派遣留学生100名」「受入留学生250名」を達成するという目標を掲げています。戦略の中で、こういう数値目標が設定されているのは国際交流の箇所だけのようで、その成果がその後の運営交付金の増減に直結するだけに、重いプレッシャーを感じながらも、スタッフ一同懸命に取り組んでいます。

国際交流センターはとても小さな所帯です。国際課のスタッフと一緒に、各所で同時進行するいくつものプロジェクトの仕事を懸命にこなし忙しい毎日を送りながらも、皆さんいつも前向きで、とても気持ちよく仕事をさせていただいています。そして、センター長に就任して改めて理解したのですが、ほとんどの国際関連プロジェクトは各部局各部署の先生方や職員の方々のご協力ご尽力なしでは成り立ちません。これまでのところ、その協力連携のお蔭で徐々に成果を上げ、上記目標値に少しずつ近づいてきていますが、もうひと踏ん張りが必要です。私も微力ながら精一杯頑張りたいと思います。今後とも、奈良女子大学の国際交流・グローバル化に皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



センター長 吉村あき子先生

Inside This Issue



国際交流センター長就任の挨拶
教授 吉村 あき子



留学生のための
日本文化体験事業



海外協定大学からの
訪問者



内閣府青年国際交流事業
「Ship for World Youth Program」(通称SWY/世界青年の船)に参加して



センター及び国際課の活動
& センター来訪者

留学生のための日本文化体験事業

国際交流センターでは、留学生に日本文化を学べるイベントを提供しています。平成29年度前期には、いけばな教室、茶道教室を実施しました。参加した留学生の感想を掲載します。

IKEBANA教室 5/17(水)実施

生け花をしたのはこれが初めてです。

生け花に対する印象はぼんやりしていましたが、今回のイベントを通して、先生の説明を聞きながら実際にやってみると、日本の伝統芸能の一つである生け花がよりわかるようになりました。生け花で、最も大事なのが、身近なことに関心を持ち、自然を観察する力だと思います。その力を活かしたら、間を取りながら花材を挿し、花がもつ美しさを表現することができます。また、似た花材を使っても、生け花は違う個性が表れる、という点も面白いです。生け花をしている中、気分がだんだんよくなり、心とむ生け花を楽しめ、本当にいい体験でした。

許 沐榕 (キョ ホクワウ) 交換留学生・台湾

This is my first time to do the いけばな. When I was in Taiwan, I only heard about it but never have chance to try. It's surprised me that it is an activity which is easy to make a person focus on it. While I was doing the arrangement, I just pay my attention on it rarely can feel what other things happened around me during the time. After this experience, I would like to do it again if there is any chance in the future. I even will want to buy some flowers to decorate my room.

許 伶安 (シュ リンアン) 交換留学生・台湾



講師 田中先生の指導

二・三年前、南京でいけばなを見たことがありますが、実際に体験したことはありませんでした。いけばなは、日本の伝統文化の一部として、魅力的だと思います。自分がいけばなを体験し、その癒しさと美しさをしみじみと感じました。今、ほとんどの人は仕事や勉強で忙しい日々を送っていますので、美しいものをゆっくり鑑賞することが贅沢になりました。しかし、いけばなのような活動はこころを落ち着かせる魅力を持っているので、体験して良かったです。とても楽しかったです。ありがとうございました。

張楠 (チョウ ナン) 交換留学生・中国

海外協定大学からの訪問者

国立清華大学教師教育センター(台湾)来学

去る2017年4月7日(金)、台湾・国立清華大学教師教育センターより教職員12名が来学されました。本学の教育学の先生方を中心に8名の方にご協力頂き、日本の教師教育に関する政策、教育及び研究について、ディスカッションを行いました。



ディスカッションの様子



国立清華大学の方一行

SADO教室

6/21(水)実施

茶

道における禅の芸術至上主義に魅了されました。「茶の本」の中で「どんな状況でもここは静かに保たなければならず、そうして会話は、周囲との調和を乱すことがないように交わされなければならない。衣服の形や色、身体の姿勢、歩き方にいたるまでのすべてが、芸術的人格の表現となりうるものなのである」と指摘されていました。茶道のそういうところが大好きです。日本のたくさんの美しい庭園も茶人により造られたそうです。日本では、私はどこでも、歩いている時、美しさを感じるような気がします。そういうところにも大変驚きました。茶道の精神も日本人に大きく影響を与えているでしょう。そして、茶道教室に参加して、前知らなかったこともわかるようになりました。絵巻の選び方や茶具の準備などは全部ゲストの気持ちを考えてくれていて本当にすごいです。

王 深(オウチン) 研究生・中国



講師 樽井先生の指導



お抹茶の作法を学ぶ



日本ならではの茶道を体験して色々勉強になった。一番印象深いのは、日本人が茶道を行なっている時、あまり喋らない、静かにお茶を味わうことである。それは、仕事や勉強などからのストレスを解消するためである。もう一つは、茶道を通して自分自身今までの人生を振り返るからだと言われる。こういう時間が非常にありがたいと思う。これはお茶の独特な魅力なのではないかと考えられる。だから、日本人がお茶のことが好きなのかと思われる。私は家族に影響されて子供の頃からずっとお茶を飲んでいる人だ。確かに、お茶は人の心を癒す効果があると気づいた。これからも日本のお茶を味わいたいと思う。

羅瀟涵(ラショウカン) 文学部・中国

一番深く感心したのは、日本文化の中で相手を配慮することです。招待者が配置する書画や花などを真剣に見て感謝を表すること、またお菓子を食べる前に、隣の人に「お先です」と言う。それは礼儀だけではなく、相手のことを大切にしたい気持ちだと思います。

符迎春(フケイシュン) 研究生・中国

リンカーン大学(ニュージーランド) 来学

去る2017年5月17日(水)、ニュージーランド・リンカーン大学からDr. Lorraine Petelo氏が来学されました。2月にリンカーン大学で行われた、グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)参加者の報告会が同日行われていた為、その会にもご出席頂き、参加した学生達と親睦を深めました。

モナッシュ大学(マレーシア)来学

去る2017年6月13日(火)、マレーシア・モナッシュ大学から下記来訪者があり、今後の学生交流について打合せを行いました。

- Dr. Sharon A Bong (Associate Professor, School of Arts and Social Sciences)



研修生と一緒に

S hip for World Youth Program ‘世界青年の船’に参加して

内閣府青年国際交流事業「Ship for World Youth Program」(通称SWY/世界青年の船)に参加してきた卒業生の感想を掲載します。

仲間 明子 文学部人文社会科学卒

私は2017年1月21日から3月4日まで内閣府青年国際交流事業「Ship for World Youth Program」(通称SWY/世界青年の船)に参加しました。この事業は1959年に今上陛下のご成婚を記念して始められた事業で、事業は、異文化対応力・コミュニケーション力、リーダーシップやマネジメント力の向上、国際的視野を広げ、国際協調の精神を育て、国際化の進展する各分野でリーダーシップを發揮することのできる青年を育成することを目的として実施されています。私が参加した第29回事業は、カナダ・コスタリカ・ブラジル・ニュージーランド・フィジー・トンガ・インド・日本・ケニア・エジプト・ウクライナの10カ国の青年と、日本参加青年120人の総勢240人が日本から「にっぽん丸」という船に乗り、南太平洋の4カ国を訪れる航海をしました。1月下旬から東京で1週間の陸上研修後、横浜港から出港しバヌアツに給油寄港、ニュージーランド・フィジーを訪問し、最後にソロモン諸島に給油寄港して東京港へ帰国しました。



日本大使団

事業の核である船上研修では、客員講師・参加青年・船長によるセミナー、コースに分かれたディスカッション、クラブ活動など多彩なカリキュラムがあります。また参加国単位でのナショナルプレゼンテーションやナショナルナイトを開催し文化交流をしました。また東京と寄港地のニュージーランド・フィジーで行われた陸上研修では、参加青年の代表が各国の首相や大統領などを訪問、課題別視察、村訪問や学校訪問等がありました。また船内生活では、自主活動を聞くことができ、それぞれの特技や趣味を紹介し合いました。

参加青年たちは参加国団、レターグループ、委員会、コースディスカッション等のグループに所属し、全員が様々なところで主体的な活動、リーダーシップの発揮が求められます。また、各セミナーでプロジェクトマネジメントなどのスキルを身につけます。船での生活は、朝の朝礼から始まり、毎日様々なスケジュールがありました。今回は印象に残っている2つのエピソードについて紹介します。

まず一つ目は、奈良県の紹介をしたことです。船内では自国を紹介するためにナショナルナイトというものを開催し、私たち日本大使団はJapan Nightと称して「日本の祭り」をコンセプトに日本各地の物産展・茶道・華道・書道・縁日を企画しました。海外青年はブースを回り、様々な日本文化を体験しました。物産展では日本各地の特産品や名産品を紹介しました。私は、協賛品としていただいた筆ペン・観光パンフレット・せんたくんピンバッチ、奈良漬、等で奈良の魅力を伝えました。奈良の寺社仏閣や奈良公園などについて英語で説明、奈良を紹介しました。

また、興味別に分かれたコースディスカッションでは、元UN 職員ファシリテーターの下で専門や経験値が異なる人々と国際貢献という共通目標について議論を交わし合いました。寄港地のフィジーでは、課題別視察としてJICAのボランティアとして活動する方を訪れました。私は将来国際協力の分野で働くことに興味があり、フィジーで実際に現場での活動を垣間見ることができ光栄でした。



自主活動でチョコレートワークショップ開催

留学や観光とは違うこの事業の良さは、船上であること、ネット環境はないこと、文化や国籍を関係なしに人と人として全力でわかり合えること、失敗ができる環境があることです。船での世界中から集まる人との共同生活は、小さな地球のような環境で過ごす時間で普段の生活とは全く異なりました。当たり前のように調べられるインターネットがない、夜になれば真っ暗で星が降ってくるような空、どの国にも属さず決められたルールがないこと、船の中の密閉空間、どこへも逃げ出すことの出来ない時間を体験しました。この船での1ヶ月間から、インターネットが広がる現代社会の中で、自分だけが出来ること・経験・どこにも載っていない情報がさらに価値を高めているように実感しました。そしてそのような特殊な環境にいるからこそ、その瞬間、その小さな出来事も大切にしたいと感じるようになりました。この事業参加への経験を生かして、今後の活動に繋げていきたいと思えます。毎年行われている事業ですので、皆さんもぜひ参加して見てください。



フィジー大統領と船上パーティにて(左から2番目が仲間さん)

センター及び国際課の活動

- 2017/4/12 交換留学生Welcome Party
- 2017/4/18 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)募集説明会
- 2017/4/20 グローバル女性人材養成プログラム(中国)募集説明会
- 2017/5/1, 19 海外留学帰国学生連続トーク
- 2017/5/16 OKCインターンシップ説明会
- 2017/5/17 留学生のためのいけばな教室
- グローバル女性人材養成プログラム(NZ)報告会
- 2017/5/30 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム) 第1回渡航説明会
- 2017/6/1 グローバル女性人材養成プログラム(中国) 第1回渡航説明会
- 2017/6/6 英国留学説明会
- 2017/6/13 ベトナム勉強会
- 2017/6/21 留学生のための茶道教室
- 2017/6/22 グローバル女性人材養成プログラム(中国) 第2回渡航説明会
- 2017/6/29 外国人留学生による日本語スピーチ大会

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.47 2017年6月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>